

Ⅱ. 教育目標

1. 学校経営計画

(1) 経営理念	児童・保護者・地域・教職員 一人一人を大切にする学校づくり
(2) 学校教育目標	つながり、高め合う北陽っ子

カリ・マネの柱 **つながり、高め合う力(国語科「話すこと・聞くこと」領域)**

(3) 今年度の重点目標

知(学習指導部)	徳(生徒指導部)	体(特活保体指導部)
自分事として、自ら学び取る子 わかる喜び	感謝できる子 思いやる喜び	努力を大事にする子 できる喜び
①「主体的・対話的で深い学び」の実装を目指して子供主体の授業を推進し、児童の姿から手立ての検証・改善を行い、児童の「わかる喜び」につなげる。 令和の日本型学校教育の具現化 ②白山ジオ学習の推進や感性を豊かにする体験活動の充実を図る。 ③読書活動の推進や学校図書館司書を活用した各教科の実践の充実を図る。	①生徒指導の4つの視点を生かした学級・授業づくりを行い、誰もが安心して過ごせる居場所をつくる。 ②自他ともに気持ちよく生活することや人とつながることのよさを実感させることで、児童の「思いやる喜び」につなげる。 ③学びの多様化に応じた組織的な対応、一人一人のニーズに応じた指導・支援の充実を図る。	①学校生活における役割を担う活動等を通して、自身のよい姿をメタ認知させることで自己有用感を高める。 ②「スポチャレいしかわ」等の取組を通して、児童の体力の向上を図り、運動を楽しむ意識や「できる喜び」につなげる。 ③白山ジオの豊かな恵みや生産者から学ぶ等から、食を大切にする意識を育てる。
生徒指導の4つの視点を生かした学級・授業づくり		
学級づくり	視点	授業づくり
めざす姿の共有	自己決定の場の提供	学び方の自己決定
役割の担う場の設定	自己存在感	「わかった」「できた」の自覚化
「ありがとう」の推進	共感的人間関係	考えを伝え合うことのよさの実感
一人一人を大切にする風土づくり	安全・安心な風土の醸成	人を大切にして聴く学習集団づくり

(4) 目指す学校組織・教職員の在り方

①組織的な学校運営
- 全教職員で全児童の感性を育むために、めざす具体の姿を教職員と児童が共有し、児童のやる気やよさを見取り、価値づける。 - 教育目標の具現化を目指した各分掌による共通実践やカリ・マネの柱をもとにしたカリキュラムマネジメントの推進を、確実に「そろえる・やりきる・たしかめる」ことで改善につなげる。 - 日常的に「報告・連絡・相談・事後報告」を行い、問題に対して迅速かつ組織的に対応する。
②家庭・地域との連携・協働
- 学校運営協議会、学校評価等、家庭や地域と願いを共有し、連携を密にしながら児童を育成する。 (小中連携、幼保小連携の推進) - 各種たよりやHP等で積極的に情報を発信することで、家庭、地域との連携を図る。 - 地域人材や地域教材の活用を通して、ふるさと白山(地域)に愛着を持つ児童を育成する。
③教員の働き方・業務改善に関する取組
- 児童の前に元気に笑顔で立つために、業務改善・平準化等に積極的に取り組む。 - 児童の教育に携わることに誇りと責任を持ち、法令を遵守し、児童、保護者、地域に信頼される言動を心がける。 「児童にとっての最大の教育環境は教師自身である」 - 組織の一員として、周りと協働しながら学校運営に当事者意識をもって積極的に参画する。 「『チーム北陽』として組織で動く！持続可能な組織づくり」

白山市教育振興基本計画 基本理念 **ふるさと白山の 未来を拓く 人づくり**
～「感性を育む教育」を基盤として～

白山市教育委員会学校教育基本方針 **「感性を豊かにする教育」** **はくさん3育(ジオ育・食育・読育)**

人は、大切にされることで、安心して自分の思いや考えを伝えることができる。教育の土台として、児童・保護者・地域・教職員一人一人を大切にする学校づくりを目指す。

児童が予測困難な未来を切り拓くには、多様な他者とつながり協働する力、様々ななかかわりの中で自身を高めていくための自己調整力や自己指導能力が必要だと考える。そこで、学校教育目標を「つながり、高め合う北陽っ子」とし、生涯にわたって主体的に学び続け、多様な他者と協働しながら、自らの人生を舵取りすることができる、民主的で持続可能な社会の創り手を「みんな」で育むことを目指す。

学校教育目標

つながり、高め合う北陽っ子

カリ・マネの柱 「つながり、高め合う子」

めざす姿

知

**自分事として、
自ら学び取る子**

**わかる
喜び**

徳

感謝できる子

**思いやる
喜び**

体

**努力を
大事にする子**

**できる
喜び**